

あまの 天野 喜四郎 (1690~1756)

多喜浜塩田開発者。備後国御調郡吉和村(現、広島県尾道市)出身。吉和浜で塩田経営に従事、米屋を称した。西条藩の意を受けた黒島浦(現、新居浜市)の年寄・好兵衛らの強い要請により、喜四郎は、自身が元締役及び塩問屋になることを条件に、黒島浦へ渡ることを承諾した。喜四郎は吉和の財産を処分して、6人の浜師(塩業者)と共に、享保9(1724)年に最初の塩浜「多喜浜(古浜)」を完成させ、塩の生産に入った。享保の大飢饉に際しては、西条藩に食糧対策を建言し、救済事業として、2番目の塩浜「多喜浜東分」を開発し、多喜浜塩田の基礎を築いた。喜四郎の亡き後も、その遺志は歴代の喜四郎(6代目まで)に受け継がれ、幕末までには伊予最大の240町歩(約238ha)に及ぶ大塩田地帯となった。

略歴

元禄3(1690)年1月5日	備後国御調郡吉和村に生まれる。
享保8(1723)年	伊予国に渡る。西条藩の許可を得て塩田開発工事着工
享保9(1724)年	「多喜浜(古浜)」が完成し、生産を開始
享保18(1733)年	「多喜浜東分」工事着工
宝暦6(1756)年12月29日	67歳で永眠。墓所は新居浜市多喜浜の久貢山にある。

〈関連図書〉

- ・天野元敬『多喜浜塩田史』新居浜市文化協会 1965年
- ・新居浜古文書研究会編『郷土古文書展示会しおり』新居浜古文書研究会 1987年
〈ゆかりのある場所〉…(P277, 54~55)